



一関市中里市民センター主催 防災探検



大林水門の役割について説明

10月21日に小学4年生7名が「水害から命を守る」をテーマに、防災力向上を目指し、地域内の探検・マップを作成するため大林水門やあいぽーとを見学しました。

子ども達は、一関遊水地が全国で3番目に大きい遊水地（岩手河川国道事務所調べ）であることを聞くと驚きの声が出ていました。



防災マップで堤防の役割を説明

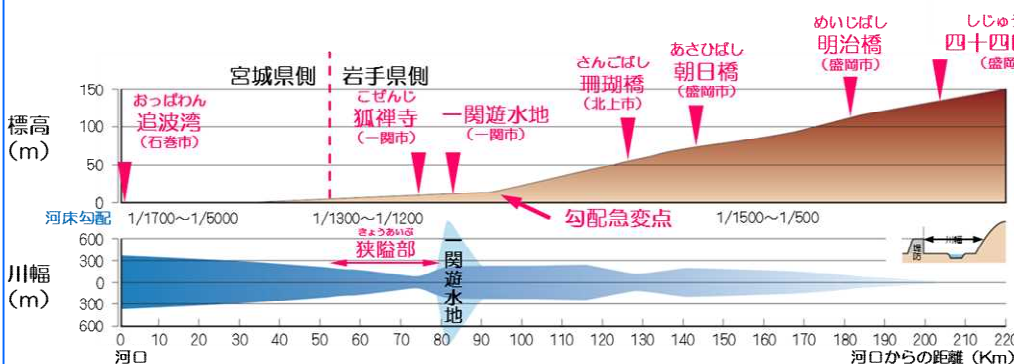


一関遊水地の役割を説明

一関・平泉地区の洪水の特徴知っていますか？

北上川の一関・平泉地区は古くから水害常襲地帯として知られ、大洪水のたびに尊い人命や財産を失い、沿川の農作物も毎年のように被害を被っていました。

洪水が起こりやすいのは、この地区の下流に非常に川幅の狭くなった区間（狭隘部）があるからで、この狭隘部は宮城県境にかけて26kmにも及び、最も狭い所の川幅は100m程度しかありません。



また、勾配が緩いため、河川の流下能力は上流区間に比べて極端に小さく、この区間で流しきれない水が、一関・平泉地区へあふれだし、洪水が起こりやすくなっています。

編集後記

堤防が整備されていても予想をはるかにしのぐ雨が降ると堤防では防ぎきれない場合があります。防災情報を確認して「水害から命を守る」行動をとってください。（よ）